

## 令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録

### 1. 会議概要

日時：令和8年5月7日（木） 14:01～

場所：岩手県立水沢高等学校 大会議室

出席者：

- 校外委員：鈴木 美喜子（奥州市文化振興財団理事長）
- 高橋 賢（PTA 副会長・次期会長）
- 千田 大介（奥州市役所ふるさと交流課課長補佐）
- 千田 博之（奥州市立東水沢中学校長）
- 高橋 昇（スクールカウンセラー）
- 中島 秀和（奥州警察署生活安全課長）

- 学校側： 千葉 賢（校長）
- 及川 総司（副校長）
- 鶴田 由美（事務長）
- 立野 浩（進路指導主事）
- 今井 達浩（生徒指導主事）
- 後藤 昌一（教務主任代理）

欠席者：平 英一（岩手医科大学医学部教授）、小平 竜太（小平法律事務所 弁護士）

### 2. 人事・役員選任

学校運営協議会の設置等に関する規則第5条に基づき、事務局より役員の提案が行われ、満場一致で以下の通り承認された。

会長（議長）：鈴木 美喜子 氏

副会長：高橋 賢 氏

### 3. 学校概況説明

#### （1）大学進学状況（進路指導課）

- ・国公立大学合格実績：現役生の国公立大学合格者は延べ131名（公立36名含む）、実合格者数は127名。浪人生は報告があった分のみで延べ8名が国公立大学に合格。最終的な現役生の国公立大学進学者は126名。
- ・短期大学・専門学校：短期大学は15名が受験し全員が合格（うち11名が進学）。医療系専門学校等にも例年通り一定数の志望者がおり、健闘が見られた。
- ・私立大学・浪人傾向：前年度と比較して志願者数および合格者数は減少。ただし、第1

志望への進学にこだわり、今年度も約 20 名が浪人を選択した。

- ・ 難関大・医学部実績：東北大学に現役 6 名・浪人 2 名（計 8 名）、北海道大学に 1 名が合格。近年は関東圏からの受験者増加により東北地区の競争が激化しているが、本校は健闘している。医学部医学科には秋田大学 1 名、岩手医科大学 3 名（現役 2・浪人 1）、自治医科大学 1 名が合格した。
- ・ 地域の特徴として、自宅を離れて生活する生徒が多くなるため、仙台圏までの東北管内あるいは経済的理由から国公立大学を志望する傾向が強い。

#### (2) 部活動結果（生徒指導課）

県大会 3 位以上、優秀賞、および全国大会出場について報告（詳細は資料参照）。素晴らしい成績を収めており、今後は全国大会での優勝や、将来的なインターハイ等の活躍を目指す。

#### (3) DX ハイスクール（高等学校 DX 加速化推進事業）（副校長）

文部科学省の認定を受け、令和 8 年度で継続 3 年目（最終年度）を迎える。上限約 1,000 万円の補助金を活用し、昨年度までに高額な ICT 機器等のハードウェア整備を概ね完了した。

本年度の取り組み（3つの柱）として、

- ①データサイエンス・データ分析の出前授業および大学との交流
- ②デジタルスペース活用による学びの DX 化
- ③出前授業や研究室を場とした、データサイエンス指導スキルの育成

を挙げている。前年度との違いとして、これまでは理数科を中心に活動を展開していたが、今年度からは学校全体の取り組みへと拡大。情報・ICT 活用・探究などを文理横断の「実践的な学び」として全校生徒に還元していく。

### 4. 協議事項

#### (1) 令和 8 年度 学校経営計画案・スクールポリシー（校長）

計画案が提示された。教育目標である「真善美」や、60 年の歴史を持つ「生徒会モットー」などの根幹部分は前年度から継続する。グラデュエーション・ポリシーでは多様な分野でリーダーとなる資質を持った人材の育成を目指す。カリキュラム・ポリシーは時代に合わせた教育課程やグループワークを推進。1 年次には普通科・理数科共通で「理数探究基礎」を履修。2 年次以降、理数科は「課題研究」など理系ベースの探究を深め（山形大学等とのリモート・対面連携実績あり）、普通科は「総合的な探究の時間」において地域と連携した広い視野での学習を進める。

重点目標（変更点）：組織として「DX 委員会」を新設。ICT 機器の有効活用に加え、生成 AI の適切な活用による生徒の主体的・効果的な学びを推進する。

#### (2) 働き方改革について（副校長）

業務量の管理・健康確保措置（新規項目）：給特法の改正動向等を背景に、今年度より新たに項目として追加。教職員の月間在校等時間の適切な管理、平等な仕事の割り振りを進める。過剰な超過勤務が発生した場合は、管理職が適切な振替措置や特別割り振り勤務の申請を積極的に促進し、教職員の健康確保を図る（昨年度は月 80 時間以上の該当者 0 人を達成）。

## 5. 主な質疑応答・委員意見

### ●委員（生成 AI の活用について）：

DX 委員会や授業での「生成 AI の活用」とは、具体的にどのような取り組みを行っているのか。

### ○学校側：

昨年度は進路指導において、生徒が生成 AI を相手に文章の推敲や「壁打ち」を行う活動を試行した。今年度はさらに探究活動への活用も視野に入れている。

### ●委員（業務効率化について）：

行政でも生成 AI の使い方に関する勉強会を開いており、今後避けて通れないものと感じている。生徒の活用だけでなく、先生方の業務効率化（時間短縮）にもうまく繋がれば良いと思う。

### ●委員（教育相談・いじめ対策について）：

少子化の中で生徒数が維持されているということは、それだけ生徒の多様性（学力差や行動面、メンタル面）が広がっている証拠でもある。担任が 1 人で抱え込まず、チームで対応する体制を構築してほしい。また、昨今はゲーム依存や SNS に関する相談も増えている。不登校やいじめ対策の計画が、単なる「紙の上の話」にならないよう、現場での実効性ある対応を望む。

### ●委員（学校との連携について）：

これまでは被害者・加害者を出さない防犯の視点が中心だったが、魅力化パートナーとして、警察の専門組織（科学捜査研究所など）の知見を活かしたアプローチも可能ではないか。法医学や鑑定の視点を交えるなど、本校の理数探究の興味関心に合致するような、新しい形での協力・連携も検討していきたい。

### ●会長（総括意見）：

優秀な生徒が盛岡方面へ流出する傾向が懸念される時期もあったが、本校での地道な授業改善や丁寧な個別指導が実績に結びついている。人生 100 年時代、学力だけでなく、どんな環境に行っても生き抜くことのできる「心も体も強く健康な子どもたち」を育てる学校であり続けてほしい。

## 6. その他・連絡事項

・次回の予定：

第2回：10月21日（水）

第3回：2月18日（木）

・事務局より連絡

今後の確実な連絡および資料送付のため、「調査表」の記入・提出を依頼。次回以降、希望者にはメール添付による資料の事前送付を行う。